

我が故郷への思い

公民館長 智原芳明

皆様のご協力により公民館の職務を二年無事に終えることができました。ここにきてようやく行事や仕事の流れが把握できた気がします。まだまだ未熟ですが今後とも変わらぬご支援、ご協力宜しくお願います。

さて、今年は早い梅雨の入りとなり、六月末から酷暑のシーズンがやってきました。

三月一日に起きた東日本大震災は多くの犠牲者と大きな被害をもたらしました。

被災をされた皆様に関心より哀悼とお見舞いを申し上げます。

また被災地にある公民館は避難所としての機能を発揮し、その重要性が改めて認識をされたと聞いています。

地震を境として日本の経済に急ブレーキがかかり、庶民の生活も「消費は美德」の時代は過去のもの

となりました。

震災の影響で関西電力エリアにおいても一五パーセント節電の協力が求められています。

ふだん私たちが家庭で使っている電気の消費量をどのようにしたら具体的に減らしていくことが出来るのか課題が投げかけられています。

電力不足と原子力発電の問題は今後も政局を含めた大きな社会のテーマとなることでしょう。

話変わって、今年になってから亡くなられる人の多い事を特筆せずにはいられません。上宮津だけでも両手の指折り数えてもなを余るほどです。

長寿社会と無縁でない自然な現象と捕えればそれまでですが、その数の多さに恐ろしささえ覚えるものがあります。

地震や津波によって家族、家、故郷を一瞬にして失った恐怖や無念さにも似た、往時の回顧に共通するものがあるような気がしてなりません。

そんな時、共通して言えるのは

「出きることは出来る間にしておく」。ことだと思えます。

今回の震災では家や村が無くなってしまったり、残っていても放射能の危険から逃れるために村を離れざるを得ない人たちを目にしました。

そんな時、故郷の大切さを改めて感じざるを得ませんでした。

人と人、物と物、お互いの文化交流を通して自然の間に心のよりどころとして、故郷は醸成されて機能してきたのだろうと感じます。

普段、私達はどつぷりと故郷の恩恵に浸かり過ぎていたため、その素晴らしさを見過ごしているのかもしれない。

「ふるさと」は遠くにありて思うもの「詩の一節が思いだされました。

その故郷を「何とかしようかいや」と熱く今頑張っています。上宮津21夢会議、地域会議など、公民館運営審議会に加わっていただいている皆様が一体となって高齢化時代に正面からぶつかっています。あらゆる行事を通して活力ある故郷の再生をめざしています。

皆様も是非とも興味のある行事

に奮ってご参加をしてください。

そんな意義深い、どなたでも簡単に参加していただける代表的な行事が上宮津盆踊りではないでしょうか。

お盆の帰省の目的は、ご先祖様の供養や灯笼流しを見ること、海や里の自然の中でゆっくりしよう。とさまざまだと思いますが、今年は上宮津保育所で行われます盆踊りに参加して下さい。

かみやづ音頭の櫓を囲んで、懐かしい話に花を咲かせるもよし、踊るもよし、出店で飲食やゲームをするもよしとそれぞれの楽しみかたをしていただきたいと思います。

行事を通して上宮津の熱い思いが皆様に伝わり、郷土愛に繋がっていただければ素晴らしい事だと思えます。



“みんな  
元氣なムラにしよう”

自治会長 細見 節夫

東日本大震災と原発事故で日本は、歴史的な転機にあり、これまでの政治・経済・社会のあり方が大きく転換を余儀なくされています。

私たちの暮らしについても節電をはじめ省エネルギーに徹し、低成長経済に対応した分相応の生活態度に改めることや、隣近所の付き合いをより深め、お互いに支えあう地域社会の再構築に努めること、自然災害に備える個人や社会の仕組みを見直すことなど身のまわりを見渡せば今日的な課題が直に浮かんできます。

農村社会では、古くから生活習慣として日常当たり前としてきたことが大震災を機に改めて人の社会の大切な安全装置として機能していることが浮かんできています。

戦後の産業化・工業化と大都市への人口集中化により農産社会が衰退していく過程の中で社会の安

全・安定を支える仕組みがことごとく破壊されてきたように思われます。

そのひとつは、人々のつながりいわゆる家庭、地域、世代などのつながりの希薄化など人の社会の重層的なコミュニケーションの崩壊です。

二つには、人々の命と生活の源流である水や食料はもとより豊かな自然の恵みを供給してくれる里山や里川の自然環境の崩壊です。

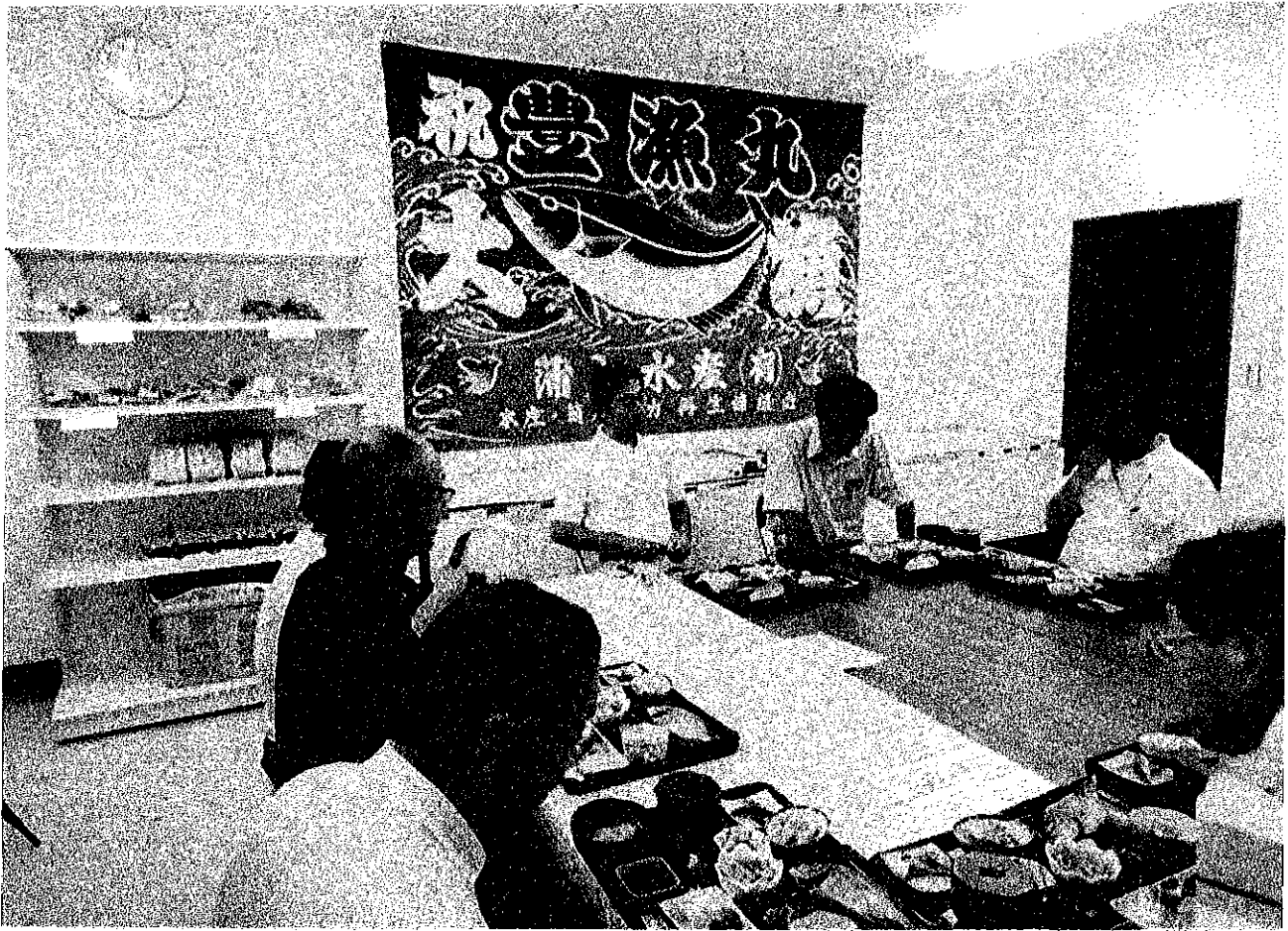
三つには、戦後の高度工業化によって人々の価値観がもの中心になって“もったいない”という気持ちや、心の豊かさを大切にする農村社会の伝統的な風土が失われてきたことです。

今、上宮津地区は里力再生事業の取り組みと今後十年を見通した新しい上宮津地域計画（振興計画）づくりに取り組んでいます。

今年三月に皆様にご協力をいただいたアンケート調査は、京都大学の協力を得て七五〇名のインプット作業が完了し、現在結果の分析中です。



渡辺信夫教授の講演会の様子



このアンケートの結果と東日本の大震災を受けた社会の動きならびに並行して取り組んでいます里力再生事業の取り組みを加味して、今秋には地域づくり計画の素案をまとめます。

素案をもとに地域住民の皆様や各種団体の意見を踏まえ来年三月に計画とする予定です。

里力再生事業の取り組みは、京都府の支援二年目に入り、昨年度の検討で縛られてきた課題を掘り下げていきます。

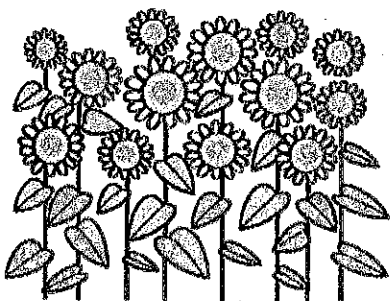
詳しくは地域会議の上宮津ふるさとニュース第二号で課題をお知らせしていますが、大きくは

- ① 上宮津の人口を増やす定住戦略の取り組み
- ② 集落営農の組織化による営農持続化の仕組みづくり
- ③ 上宮津の新しい特産品開発の取り組み
- ④ 大江山の年間を通した新しいビジネスの開発
- ⑤ 防災を中心に安全安心のむらづくり
- ⑥ 高齢者の安全安心の生活環境づくり

今月一日には、和知の山内善継氏による集落営農組織化の講演会、七日には「漁港めし」でむらづくりに取り組んでいる伊根町蒲入の視察、八日には立命館大学の渡辺信夫教授の講演会など地域会議で精力的に取り組んでいます。

アンケート結果は追ってお知らせしますが、多くの皆さんが上宮津地域の先行きに危機感を持っていただいております、課題についても共有されている結果が出ています。

東日本の被災者の方々のことを考えるとき私たちは、まだまだ恵まれています。みんなの力でよりよい上宮津地域とするために皆さん一人ひとりの力を貸してください。



地域の皆様のご協力に

感謝します

前小田自治会長 太田喜尚

東日本大震災の被害状況を目にするにつけ、今更ながら台風二三号の惨状を想い起す。

平成一六年十月二十日台風二三号襲来により、上宮津地域は壊滅的な被害を被った。杉山林道の工事を起因とする土砂流により、岩戸の拙宅が床上浸水被害を被ったのも、同日午後七時過ぎのことであった。

同日の岩戸雨量観測所の総雨量は、二九八mm、大手川の最高水位は、午後六時三八七cmを記録している。市内の家屋浸水被害二六二棟、四名の尊い犠牲者を出してしまつた。改めてご冥福をお祈りします。

上宮津地区内では、二集落の孤立を生み、農地関係だけでも被害箇所三六四箇所（市全体の六五％）という惨状。この復旧工事が、平成一七年度から本格的に始まつた。

災害復旧工事名から見る地区は、中ノ茶屋、辛皮、岩戸、関ヶ

瀧、栃本、平野、糺屋、蛭子川、丸山、古心、荒堀垣、城山、生野谷、中島、僧都ヶ谷、堅田、柿ヶ成、天神、今福、松縄手。

宮津市所管の河川関係では、堂瀧川、仁王川、水無谷川、松川、奥釣川、一本松川、荒田川、竹ノ本川、元普甲川、蛭子川、古心川、大手川河川、桑原川、柿ヶ成川、今福滝川。

道路関係では、府道綾部大江宮津線普甲峠区間、府道宮津野田川線香河峠区間。市道では、辛皮分教場線、小田辛皮線、竹ノ本線、栃本線、クズヤ橋線、平野山線、空高線、古心線、天満宮線、柿ヶ成線、家の奥線、中道込山線、荒木野游谷線。

林道では、杉山線、生野谷線、滝山線。その他、綾部宮津道路関係十四箇所、KTR護岸復旧等が施工されたが、特筆すべきは、大手川河川改修が、激特事業採択により、五年（実質六年）の歳月をかけて、河口から六地藏迄全面的に施工されたことだ。生野神社橋の合理化案も、地区内一丸となつた要望が功を奏し、現状どおりの架け替えて府の理解が得られたの

も、思い出に残り、災害のない二級河川大手川として生まれ変わった。地区内の二三号災害復旧状況の概要を記し、府市各関係機関のご尽力と地域の皆様方のご協力に感謝申し上げ、東北地方の復興の一日も早からんことを念じ、お礼の言葉とします。



小田自治会長に就任して

小田自治会長 彦坂好幸

四月に小田地区の自治会長という大役を仰せつかり、四ヶ月が過ぎようとしています。

この間、いろいろな会議などに出席し、各種団体の組織を知るとともに、それに関わっておられる多くの方々とお会いすることができました。

そうした中で、皆さんが豊富な知識や経験に基づき、何事に対しても常に真剣に、そして積極的に取り組んでおられることに感銘を受けました。

上宮津の地を離れたことがないにもかかわらず、井の中の蛙であるだけでなく、地元のことを何一つ分かっていない私は、今になって職の重大さを痛感しているところなのです。

これから、地域の皆様の一つ一つ教えていただきながら、前に進んでいきたいと考えています。

今後とも、皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

七年間 大役を

勤めさせていただいて

八尋慈教

上宮津振興計画の推進を目的に平成十五年三月設立された上宮津二十一夢会議の代表を七年間の長きに渡り勤めさせていただきました。

上宮津地区の皆様の団結力と行動力に感謝と敬意を表します。

まず自分達が地域を知り、自らが樂しむ事から始め、六部会に分けてのスタートでしたが、辛皮の源氏ほたるを觀に行こう会・宮津市の五十周年記念事業の上宮津ロマン街道満喫ウオークの協賛事業が最初の取り組みだったと思います。

皆様の英知と積極的な行動により大成功で終了し、これをきっかけにそれぞれの部会活動に弾みがついたように思います。

里山里川部会中心に、辛皮ほたるとカジカ夢酔い祭りの実施。KTR法面の除草作業。もの作り部会によるお米とそば作り。歴史文化部会による上宮津お宝マップ作り。歴史街道の整備。杉山大江山部会による四季折々の大江山探索とウオークまた案内板・標柱などの設置。広報委員会は、今回で四十九

回の杉山ゆめだよりを発行していただきました。

平成十六年の台風二十三号にも負けずに、さまざまな行事を継続定着させて実績を積み上げていただきました。対外的にもしっかりと上宮津をPRしていただき、各地より上宮津の元気を認めていただいたところ です。

知事表彰も二回・環境大臣表彰も頂き、公的機関からも高い評価を頂きました。一定の知名度は伝えられたのかなと思っております。

地区の皆様が力強いお支えと地元に対する熱い思いで作り上げられた夢会議の実績だと思います。

何よりも公的資金も受けず手作りの夢会議が強みだと考えます。

会をお預かりして七年間、私のリーダーシップとポリシーの無さが、行動力のある方々に支えられながらも何も出来なかつた事を反省しております。

こんなすばらしい会の代表をさせていただき、私をお育て頂いた事に感謝申し上げますと共に、誇りに感じております。

今後は各部会間の交流と、会員非会員を問わず、より多くの人が参加で

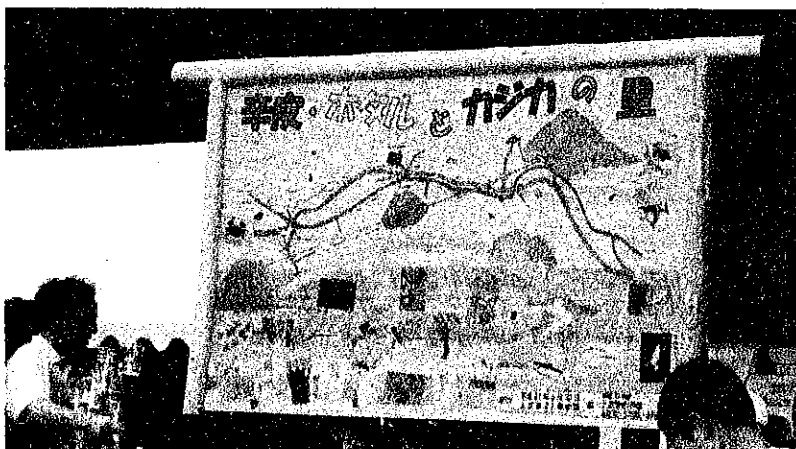
きる体制と環境作りも必要だと思います。

昨年度より地域会議も新たにになり活動も活発になる事と思えます。役割分担をしながら、より良い上宮津創りに繋がればと考えます。

緑と自然環境に恵まれた、この地域で今何が必要か、しっかりと見定め前向きに、出来る事からあせらずに、活動して行く事が大切だと思います。

それぞれの得意分野で協力し合えば住み易い、自ら誇れる地区になる事は間違いないと確信しております。

お支え頂いたすべての皆様感謝申し上げます。今後益々各団体との協働活動で優しさ、誰もが住んでみたくなる上宮津になる事を念じ上げます。本当に世話になりました。



## 今 保育所は

上宮津保育所所長 多田志津枝

今年度、上宮津保育所は、年長児（5歳児）がいない2・3・4歳児のみです。

年長児がいると、活動的な遊びが多く、小さい子もそれを見て真似たり、一緒に遊んでももらったりできるけれど、2・3歳児はまだ一人遊びをしたり、少しずつ友だちと関わろうとして、一緒にままごとなどをして遊んでいます。

保育所が以前から続けている雑巾がけをしてみると、小さい2歳児も真似て上手にしています。卒園するまで毎日続けたら、きつと足腰が強くなるでしょう。

春には、保育所の後ろの土手でもぎぎを作ってもらいました。自分たちで摘んだよもぎの団子をととても喜び、みんなで「おいしいね」と言っておきました。

また、散歩をして地域の人に出会おうと、大きな声で挨拶をしたり、クローバーを見つけると、摘んで首飾りなどを作って、のどかにゆったり楽しんでいきます。

先日は、おたまじゃくしを捕ってきて、みんな毎日観察している。手足が出てきてかえるようになったので、外へ逃がしてあげました。

もうすぐ暑い暑い夏です。保育所の後ろの整備されたきれいな川で、安全には十分気をつけながら川遊びがしたいと思っています。今から楽しみにしています。

この様な自然いっぱい環境に囲まれた上宮津保育所は本当に最高です。

そんな上宮津保育所に魅力を感じて遠くから来ている子どももいます。

しかし地元から来てくれる子どもが少なくという現状が少し残念です。

しかし、私達は、今、子ども達が春夏秋冬、四季折々の豊かな自然に囲まれてのびのびと人間性豊かに育って欲しいと願っています。

大人になっても、この上宮津保育所を忘れずに、愛し続けてくれることを願います。



保育所の避難訓練の風景

平成 23 年度公民館運営審議会、公民館活動推進委員会および青少年体験活動推進委員会の委員が次の方々になりました。  
本年度 1 年間公民館の運営にお世話になります。

## 公民館運営審議会委員名簿

彦坂 好幸	小田自治会会長
細見 節夫	上宮津自治連合会会長 (喜多自治会長)
福井 愿則	今福自治会会長
三田 剛資	天神自治会会長
米谷 敏郎	鳥が尾自治会会長
斉藤 義憲	松縄手自治会会長
細見 政寛	上宮津財産区管理会会長
岡 伸侍	合同会社大江山スキー観光代表
杉田喜美代	市社協上宮津支会長
安井 祐男	上宮津小学校校長
多田志津枝	上宮津保育所所長
大塩 京子	民生児童委員常務
粉川正太郎	上宮津体育協会会長
松岡 照幸	宮津市体育指導委員
粉川 宗久	上宮津 21 夢会議代表
井笹 孝昭	上宮津保育所保護者会会長
岡田 英文	上宮津小学校 P T A 会長
藤田 淳志	上宮津青少年後援会会長
岡田 延子	天神青少年後援会会長
谷中 武司	鳥が尾青少年後援会会長
武若 治	千歳会会長
奥野 重治	今福福寿会会長
関野 揚司	喜多城倶楽部
智原 芳明	上宮津地区公民館館長
粉川 紀子	上宮津地区公民館主事・自治連事務局

## 公民館活動推進委員

白石 裕久	小 田
八尋 尚美	小 田
寺下 博文	喜 多
智原 保孝	喜 多
奥野 利貞	今 福
森山 俊雄	天 神
上野陽一郎	鳥が尾
桑原 政光	松縄手

## 青少年体験活動推進委員

太田 敦久	小 田
細見 秀史	喜 多
宮本 真人	喜 多
長林 尚之	今 福
高奥 信也	天 神
斎藤 和子	天 神
中田あゆみ	鳥が尾
岡田恵美子	鳥が尾
岡田 英文	鳥が尾
松岡 照幸	松縄手



# 本年度の公民館事業

## ◇講演・講習会

健康教室

七月二日

一般教養講座

十月中旬

しめ縄講習会

十二月上旬

囲碁大会

一月上旬

男の料理教室

三月

## ◇地区全体

上宮津駅伝

六月十二日

盆踊り大会

八月十四日

敬老会

九月二五日

運動会

十月三三日

文化祭

十一月十一・十三日

## ◇同好会・サークル活動

短歌教室

毎月第3金曜日

陶芸教室

毎月第4土曜日

囲碁教室

毎月第2土曜日

太極拳

毎月第2金曜日

バドミントン教室 毎週火土曜日

## ◇青少年体験活動

青少年健全育成懇談会

七月

こどもいきいき体験活動

未定

新春おたのしみ会

一月七日

## 人権標語

平成二三年度宮津市人権標語佳作

ありがとう あなたとわたし えがおさく

上宮津小学校 中田友依

## 公民館利用上の心得

上宮津地区公民館は、地元住民の貴重な財産です。

安全に気持ち良く利用していただくために利用される方は、以下の心得を守ってください。

- ① 館内は禁煙です。たばこは、所定の喫煙場所で
- ② ガスの元栓は必ず閉める
- ③ 冷暖房のスイッチの確認
- ④ 食事後の容器は持ち帰る
- ⑤ 最後にもう一度火の元、灯の元、戸締まり確認